

第7章 計画の進め方

1. パートナーシップの体制

本計画は、『走る』『停める』『守る』『活かす』を柱に推進していきますが、計画に基づく取組が早期にスタートし、計画全体が有効なものとなるためには、自転車を利用する市民、『走る』『停める』等の空間・環境を整備する道路管理者や平塚市等の行政及び関係機関、安全管理を指導・監視する交通管理者（警察）、自転車と共存共栄し市民の足を維持・発展させる交通事業者など様々な関係者が、それぞれの役割分担を認識し、本計画の取組を一体的かつ横断的な協働（パートナーシップ）体制のもとで進めていくことが重要です。

このようなことから、本計画策定から具体的な空間や施設計画・設計の検討・協議、空間・施設整備、施設利用ルールの遵守や意識向上、施設の維持管理等自転車活用推進の継続的な取り組みにおける関係者の役割分担について認識し、そのパートナーシップに基づき本計画に取り組んでいきます。

関係者	役割
平塚市	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の進行管理、及び必要に応じた計画の見直し、関係機関との調整 ・自転車走行帯の有効性、安全性の検証 ・駐輪対策の推進 ・駐輪場（サイクル&ライドを含む）の整備 ・自転車のより活用しやすいまちづくりのための関係機関との調整 ・平塚型レンタサイクル事業のニーズの把握、周知及び運営方法の検討 ・交通安全教育の実施
道路管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車走行帯整備に関する関係機関との調整及び整備
交通管理者（警察）	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教育の実施 ・交通違反者の取締りの強化及び交通安全啓発活動の実施 ・自転車走行帯整備に関する道路管理者との調整
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車走行帯整備に関する道路管理者との調整 ・駐輪場（サイクル&ライドを含む）の整備における協力 ・交通安全教育への協力
（公財）平塚市まちづくり財団	<ul style="list-style-type: none"> ・駐輪場（サイクル&ライドを含む）の整備及び管理運営 ・レンタサイクルの運営、アンケート等の協力、周知及び運営方法の検討 ・スケアードストレート、自転車ヘルメット購入費助成事業の実施
商業関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・買物客用の駐輪場の確保
平塚市交通安全対策協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全啓発活動 ・交通安全指導力の向上 ・交通安全意識の向上
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・走行ルールを守った自転車走行 ・適正な駐輪場利用 ・自動車利用から公共交通や自転車利用への転換 ・自転車活用による健康の保持増進

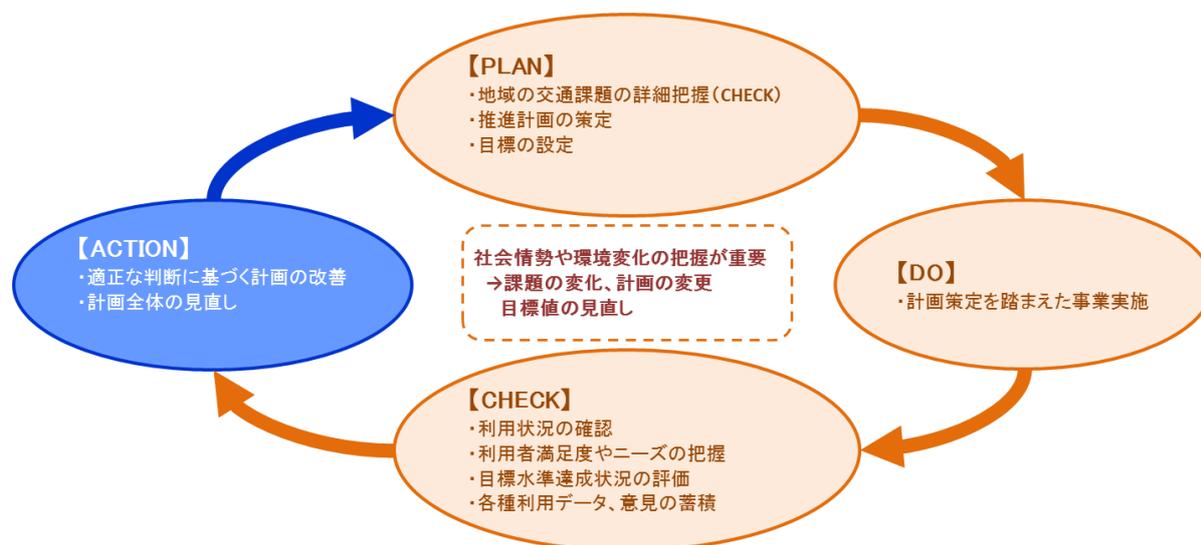
※ 今後の進捗状況によっては、役割の追加、変更の可能性がります。

2. 継続的取組

2-1. 計画の進行管理

本計画策定後には、『走る（自転車の走行環境）』、『停める（自転車の駐輪環境）』等ハード施策、『守る（自転車を安全に利用するための交通ルール・マナー啓発）』、『活かす（まちの活性化に繋がるような自転車活用の推進）』等のソフト施策が、推進計画（Plan）に基づいて実施した具体的なネットワークや空間整備、結節点整備や広報・啓発活動等の取組（Do）によって、その効果が得られているかを、成果目標（アウトプットとアウトカム）という具体的な「物差し」によって検証（Check）し、社会情勢の変化にも対応しながら必要に応じて施策を見直し改善・実行（Action）していくことが必要です。

このため、計画の策定（Plan）から、施策の展開（Do）、評価（Check）、改善（Action）を繰り返すPDCAサイクルにより、着実に現実的で有効な施策展開を図っていきます。



2-2. 成果目標

(1) 評価項目

本計画の継続的推進にあたっては、施策の進捗状況や施策実施による効果を把握し、事業進捗管理や施策成果に基づき、さらなる推進計画の見直しが必要となります。

そのためには、自転車利用者だけでなく広く市民に本計画の進捗・効果を分かりやすく理解してもらうための具体的な指標を用いて説明することが重要であり、下記のアウトプット（施策実施状況を示す指標）とアウトカム（施策導入の成果を示す指標）を4つの施策体系（走る、停める、守る、活かす）に沿って設定し、ホームページ等でその進捗状況を公表します。

●アウトプット

- ・自転車ネットワーク整備率
- ・交通安全教室の開催回数
- ・駐輪場整備状況（駅周辺・バス停付近）
- ・平塚型レンタサイクル事業の実現状況

●アウトカム

- ・自転車の車道走行率
- ・平塚駅周辺の放置自転車台数
- ・自転車関連事故件数（事故データ）
- ・市民の自転車利用に対する満足度（自転車走行帯、駐輪場などに関する市民意識調査）

評価項目

評価項目	評価指標	施策体系			
		走る	停める	守る	活かす
アウトプット	自転車ネットワークの整備進捗状況の把握	○			
	駐輪場の整備状況の把握	平塚駅周辺の自転車収容台数		○	
		バス停付近の駐輪場整備数			○
	自転車安全利用啓発活動の把握	交通安全教室の開催回数			○
利用環境推進状況の把握	平塚型レンタサイクル事業の実現状況				○
アウトカム	自転車走行状況の変化	○		○	
	駅周辺の違法駐輪状況		○		
	自転車関連事故発生状況	○		○	
	自転車利用者の意識変化	○	○		○

(2) 計画の目標年次

計画の目標年次については、上位計画である平塚市都市マスタープラン（第2次）と平塚市総合交通計画の目標年次にあわせ令和9年度（平成39年度）とし、下記のとおり進捗を確認しながら事業を進めていきます。

具体的な目標

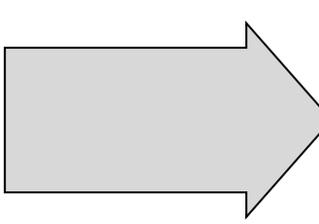
アウトプット指標	現況 (H30末)	前期 (R2~5)	後期 (R6~9)
		目標値	目標値
自転車ネットワーク整備率 (※1)	25% (8.8km/22路線)	63% (22km)	100% (35km)
平塚駅周辺の自転車収容 台数 (※2)	10,081台	10,365台以上	10,365台以上
バス停付近の駐輪場整備数	8箇所	12箇所	17箇所
交通安全教室の開催回数 (※3)	224回/年	230回/年	230回/年
平塚型レンタサイクル事業 の実現状況	アンケート調査実施 ⇒H30.5から日曜日、 祝日営業開始 ⇒ホームページにより 周知	ネットワークの確立、 サイクルポートの拡充	ネットワークの確立、 サイクルポートの拡充

※1 自転車ネットワーク整備は、整備の必要性の高い日常の自転車ネットワークの整備を令和9年度（平成39年度）までに実施します。また、目標値については市道とし、国道及び県道の目標値は、今後、各管理者で事業策定をした段階で全体の目標値を見直すものとします。

※2 自転車収容台数は、公共の駐輪場とします。

※3 交通安全教室の開催回数は、本市で実施する交通安全教室とします。



アウトカム指標	現況 (H30末)		目標値 (R9)
自転車の車道走行率 (※4)	5%~		60%
平塚駅周辺の放置自転車台数	49台		0台
自転車関連事故件数	242件		県内平均以下（自転車交通 事故多発地域解除）
自転車利用満足度 (※5)	17%		50%

※4 自転車通行帯を整備した路線の車道左端の走行率とします。道路の種類は、「両側歩道あり」、「片側歩道あり」、「車道」のみの3種類とします。

※5 自転車利用満足度の現況値は、平成30年度に行った「市民意識調査」の「快適な住環境の整備」の満足度値とします。

